

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で人間らしく暮らしていただけるよう支援いたします」を事業所理念とし、業務会議では意義を確認し具体的な取り組みを図っている。市報や地域のお知らせ等必ず職員全員が目を通し情報を共有できている。	地域とのつながりを大切に、行事企画の段階では常に理念を確認するなど、日々の実践に反映させようとする努力が、資料等で伺われます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域住民の一人として自治会に加入する他、地区施設の理事に就き、総会等の集会に職員が参加しながら、施設への理解を求めている。外出レクで近隣の商業施設等を利用したり、祭りなどに参加し、地域の方々と交流している。	自治会での交流や、行事を通じての地域住民とのふれあい、日々のつきあいにより「顔なじみの関係」が形成されるよう積み重ねていることは注目に値します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者のプライバシーに配慮した上で、資格取得目的の実習生や市内中学生の職場体験実習を積極的に受け入れ、人材育成に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回自治会長・民生委員・市役所・地域包括支援センター・家族代表が参加の下、開催している。評価結果や活動内容の報告とともに参加者から質問、意見、要望を受けている。	行政も参加し、事業所の現状と課題について丁寧な検討が行なわれています。	今後は外部評価結果についても運営推進会議の場で検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催の度に出席を依頼している。市の都合により出席に至らないこともあるが、会議の場で報告や相談を行い、アドバイスを受けている。また事業所体制の見直しの際、事前に担当者へ相談を重ね、申請を行っている。	行政との連携体制が構築されており、グループホームでの生活継続のために長寿福祉課や生活保護担当課等との連携が密に行なわれていることが分かりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を設置し「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに内部研修を実施し、職員に周知徹底を図る為、自己チェックシートを活用し業務の振り返りを行っている。外出・帰宅願望者に対しては声かけや同行して施錠することのない自由な暮らしを支援している。	徘徊や帰宅願望のある方について、毎日のミーティングなどで危険性の確認をし、拘束をしないケアにつとめていることが支援経過などから分かります。家族との連携により、危険や事故防止にも配慮する体制があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。内部研修を実施する他、自己チェックシートを活用し日常業務への振り返りを行いながら、虐待の防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、職員が制度についての知識を持ち理解を深めるようにしている一方、ケアマネージャーが主となり、社会福祉協議会、行政等各関係機関と利用者の橋渡しとなり、活用しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約の際は利用者や家族等の抱える思いを傾聴しながら、不安や疑問を可能な限り解消できるよう、十分な説明と話し合いを行える環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がない為家族へは運営推進会議や担当者会議への参加を呼びかけており、参加可能な方はその場で意見をもらっている。それ以外の方には面会時や電話での対応を行っている。	いろいろな機会を利用して家族からの意見を吸い上げる取組みがなされていることが分かります。外部評価のアンケート結果についても検討をお願いいたします。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム日誌に誰でも記入できるよう、専用の記載欄を設け、職員から意見・要望を出してもらい、業務会議の時に全員で検討する機会を設けている。また、管理者は定期的に職員の個人面談を行い、意見や要望を聞く機会を設けている。	法人本部からの定期的な個人面談や、事業所の会議等で職員の意見を丁寧にすくいあげる仕組みがあります。意見に対する回答は、ミーティングなどを通じてなされ、応答関係が構築されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は状況を把握する為現場に出向くこともあるが、毎日密に連絡が出来る環境にある。特に職員の資格取得を支援し、取得後は個々が向上心を持って働けるよう配慮している。毎年、職員の為の健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう、勤務シフトを計画し工夫している。参加した職員は直近の業務会議で発表し、また研修レポートを作成し全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区にある施設と餅つきや運動会などのレクリエーションを企画し、実行し交流しており利用者も楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いて話ができる機会を設け、必ず本人と向き合って心身の状態や本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始されるまで何度かホームへ来所いただき、話し合いを重ね家族のニーズを引き出している。来所が不可能な家族には電話で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に要望を聞き実現できるよう最善の方策を検討し提案できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者は家族の一員である」という認識を職員が共有して、一緒に生活しているという姿勢でサービスにあたっている。利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、いろいろ教えてもらう姿勢である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には本人の日頃の状態を報告・相談し情報交換に努めている。何か問題が発生した場合にはすぐに家族へ連絡・相談を行い支援の方向を決定し、家族に出来ることがある場合には協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方々にも広く面会に来てもらえるようお願いし、面会時には制限を設けていない。また施設の行事へも積極的に参加協力してもらい、一緒に過ごせる時間を提供している。また、行きつけのお店に続けていけるよう支援している。	利用者の重度化により、対応が難しくなっている側面はありますが、友人に面会を呼びかけたり散髪等の機会を設けての交流など、日々の取組みが丁寧になされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプラン等支援状況の情報提供を行い馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で一人ひとりが発する言葉や表情から思いの把握に努めている。意思疎通が困難な方はご家族や関係者から情報をいただき、日頃のケアに活かせる検討している。	日々の支援のなかで、一人ひとりとゆっくり過ごす機会を設定し、態度や行動から思いを把握する取組みがなされていることが経過記録からも伺えます。	利用者の発した言葉や行動など、ありのままを記録し、ケアプランや日々の実践に役立てるような更なる工夫が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者等から少しずつ聞き取りをし、それを蓄積しながら本人の全体像へつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人ひとりの生活のリズムを理解したうえで、さらに日頃の行動・動作・表情・言葉から変化を感じとり現状の把握に努めている。また、それを詳細に記録しアセスメントやモニタリングに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリング・カンファレンスに担当職員・施設長・計画作成担当者が関わり必要があれば職員全員で意見交換し、本人・家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映されるようにしている。	ケアマネジメントのプロセスに沿い、丁寧な情報収集と分析・実践・評価がなされています。今後はストレングス視点を考慮した更なる展開に期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し排泄等身体的状況及び日々暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している。いつまでも全ての職員が確認出来るようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや入所前の体験など柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けるよう警察との連絡体制を確保したり、民生委員との話し合いの場を設けたり、外出時の支援等ボランティアの協力もある。また、おむつ券の利用や代行申請等介護保険以外の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診を本人や家族が希望した場合は、続けて受診を支援している。それ以外の方は本人や家族の同意・契約を得て、のつはる診療所・ひろたクリニックから2週間に1回の訪問診察を受けている。	かかりつけ医や診療科目ごとの受診支援が介護支援専門員や家族との連携のもと実施されています。医療機関との情報のやりとりも確実にこなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やささいな表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。状態変化があれば報告し連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞うようにしている。入院によるダメージを防ぐ為に、医師と話をする機会を持ち、ホームとして対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。また、本人や家族の意向を聞き、出来る限り希望に沿えるよう、主治医に相談をしている。	協力医との連携のもとでの看とりの体制はできています。また家族の意向を確認しながら、地域の医療機関と連携し対応している実情をこれまでの支援記録等から確認できました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年数回一斉に実技を含む勉強会を実施し訓練している。また、夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回(3月・10月)避難訓練を計画し、全職員参加、消防署立ち会いのもと、指導を受けながら、利用者と共に訓練を行っている。	すぐ近くにある消防署や地域住民との防災訓練や夜間を想定した避難訓練などが確実に実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もまずは本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。自己チェックシートを活用し、日頃の振り返りを行い、管理者は必要があれば指導している	さりげないケアとして、「大声を出さない」「選択的な示し方をする」など事業所としての原則的な接し方を徹底させる取組みと、利用者個々の背景理解など丁寧に対応していることが諸記録により分かります。	左記のように日々実践されていることを、事業所のマニュアルとしてきちんと位置づける必要があります。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。外食の際にはメニューを利用者が選ぶようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の基本的な流れはあるが、希望に添って一人ひとり生活のペースを大切にしている。買い物や散歩等希望された場合も柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みのある理容院がある方は自由に利用できるよう支援し、それ以外の方にも月1回契約している美容師さんにホームへ出張してもらい、カットや毛染めの希望に対応してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する作業で野菜の皮むき・ごぼう削ぎ・ごますり・片付けをしていただいている。調理したものを写真に残し、閲覧用資料として役立てている。また、職員が毎食検食し記録している。季節感のある献立作りにも取り組んでいる	食に対して体感できることや視覚的な工夫などが分かります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、野菜を中心に魚・肉等多数の食品を取り入れた食事を提供している。体重の著しい減少が見られる利用者には食事摂取状態を確認し、食量を見直したり本人の嗜好の食べ物を負担にならない程度に出すようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた歯磨きの介助または声かけ・見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、尿意のない利用者には時間を見計らって誘導し、利用者全員がトイレでの排泄を基本としている。職員は利用者配慮し、一人ひとりの生活リズムや身体状態を把握し、それに応じた介助を行っている	日々の排泄状況を丁寧に分析し、適切な排泄支援につなげようと取り組んでいることが、支援記録からも読み取れます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記録し個々の排泄パターンを把握している。十分水分摂取を行い野菜中心のメニューで食物繊維を豊富に摂取できるように工夫している。毎朝の体操等身体を動かしたり、腹部マッサージを便秘対策として行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能で自分で入浴できる方には自由入浴を楽しんでもらっている。くつろいでもらえるよう個別入浴を実施している。入浴を拒む方には心情に配慮した声掛けや対応を工夫している。安全の為、常時職員2名が付き添い合時している	入浴を拒否される方に対しては、タイミングをはかり声かけを丁寧にするなど、利用者の状態に合わせた入浴支援が行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や希望に合わせて休息がとれるように支援している。眠れない利用者については原因を探り生活リズムを整えるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供情報書をファイルに保存し、職員が内容を把握できるようにしている。薬袋に氏名・日付を記入し服薬時には職員が服薬管理を利用者が口に入れるまで確認している。状態変化が見られる時は、受診時に担当医に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から利用者一人ひとりが力を発揮できるよう支援している。野菜作り・掃除・洗濯物たたみ・調理の下ごしらえ・草取り等楽しみながら行っている。ホーム内の季節行事・誕生日会など年間計画を立て実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じて近所を散歩したり、近くのスーパーまで買い物へでかけたり、遠方への外出は家族や友人の協力を得ている。気候の良い日は全員で庭に出て食事やお茶を楽しんでいる。施設行事としても外出の機会を定期的に企画している。	近隣の併設事業所と連携のもと、季節的な外出の機会を設定するなど、「出かける楽しみ」をつくりだす取り組みは評価できる点です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者には少額ではあるが手元に所持してもらっている。家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも、買い物の際は自分で払っていただけるようお金を手渡すことで社会性の維持につなげている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に支援している。電話の場合は職員が用件を受け取り次ぎをしている。家族からの手紙や電話も歓迎している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に自然な光が差し込み明るく清潔感のある空間作りに取り組んでいる。適所に観葉植物や季節の草花を配したり、壁面の飾りも季節ごとに工夫している。調理室が居間と隣接し料理の匂いやまな板の音など生活感のある家庭的な雰囲気を大切にしている	家庭的な雰囲気と季節感を味わえるような共有空間の飾り付けに配慮していることが、現場確認により分かりました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事故が起きないようにテーブル・椅子・ソファの配置に配慮し、利用者が自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具を持ち込んで使用したり、写真を飾るなど、その人らしい居室にし、落ち着いて過ごせるよう配慮している。各担当の職員を配置し、清掃や衣服の整理等、環境整備を手伝っている。	居室の私物や家具配置など、利用者本人が落ち着けるよう配慮していることが分かります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動空間の細部に手すりを設置し、廊下を広く取り、邪魔な物は一切置かないようにしている。		